令和７年度全国学力・学習状況調査　　　　　　　　　　　　　　　　　小学校調査
学力に関する状況調査結果 小６国・算　　　　東松山市教育委員会

集計結果
国語

	東松山市	埼玉県（公立）	全国（公立）
児童数	709	55, 986	936, 137

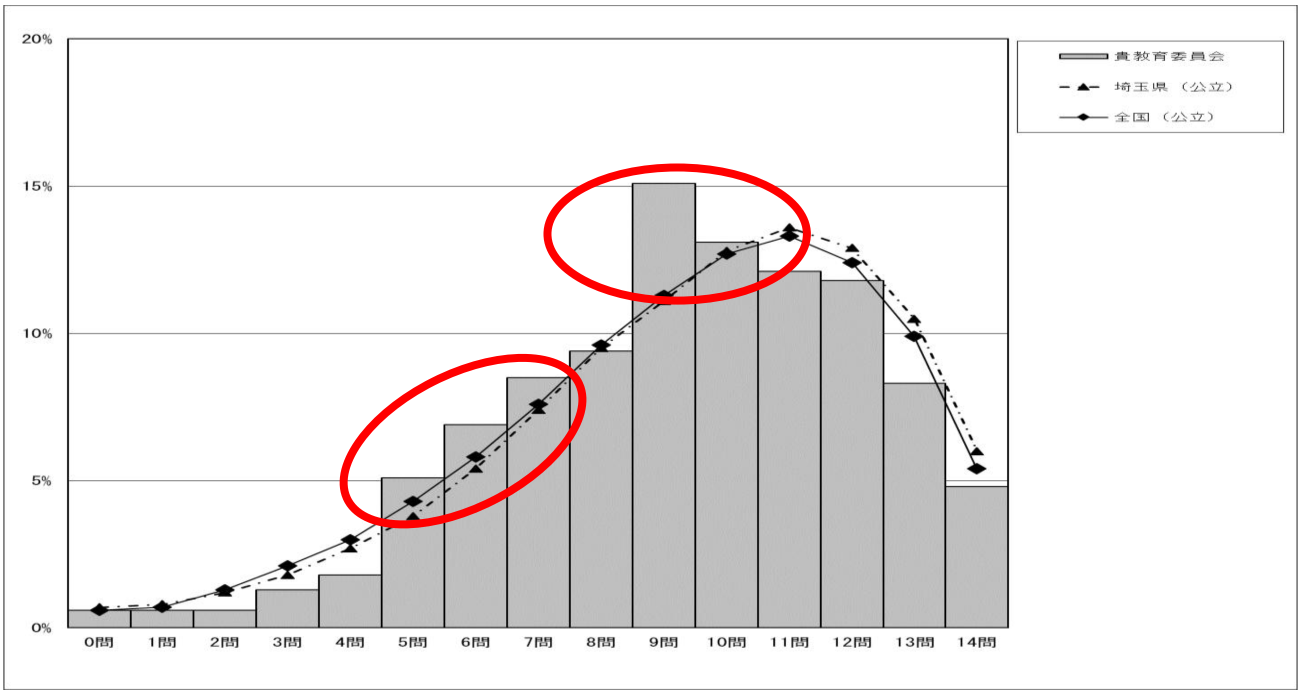
1. 領域別正答率　※下段の数値は令和６年度（斜線部は調査事項なし）

教科	学習指導要領の領域	平均正答率（%）			全国を５０としたときの東松山の換算値	東松山市－全国
		東松山市	埼玉県	全国		
国語	言葉の特徴や使い方に関する事項	76. 6	77. 5	76. 9	49. 8	-0. 3
		61. 5	66. 2	64. 4	47. 7	-2. 9
	情報の扱い方に関する事項	64. 3	64. 8	63. 1	51. 0	1. 2
		86. 5	87. 5	86. 9	49. 8	-0. 4
	我が国の言語文化に関する事項	81. 4	81. 5	81. 2	50. 1	0. 2
		74. 6	75. 3	74. 6	50. 0	0. 0
	話すこと・聞くこと	64. 6	67. 3	66. 3	48. 7	-1. 7
		58. 6	61. 6	59. 8	49. 0	-1. 2
	書くこと	70. 8	71. 1	69. 5	50. 9	1. 3
		69. 2	69. 2	68. 4	50. 6	0. 8
	読むこと	56. 9	58. 4	57. 5	49. 5	-0. 6
		70. 7	72. 0	70. 7	50. 0	0. 0
	全体	67	68	66. 8	50. 1	0. 2
		67	69	67. 7	49. 5	-0. 7

＜値からの考察＞
○　「情報の扱い方に関する事項」や「書くこと」の領域で大きく伸びが見られたことで、全体の正答率が全国を上回ることができている。

▲　「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均を大きく下回っている。話し合いの中で、話者の意図を捉えたり、考えが伝わりやすく表現を工夫したりすることが課題となる。

２．「正答数分布」グラフから



＜グラフからの考察＞
○　下位層と上位層共に全国よりも少ない。下位寄りの中位層や上位寄りの中位層が全国よりも多いことから、中位層の伸びが、市全体の学力向上に大きく関わっているといえる。

集計結果

算数

	東松山市	埼玉県(公立)	全国(公立)
児童数	708	55,988	936,399

１．領域別正答率

※下段の数値は令和６年度（斜線部は調査事項なし・「測定」は３年生までの内容）

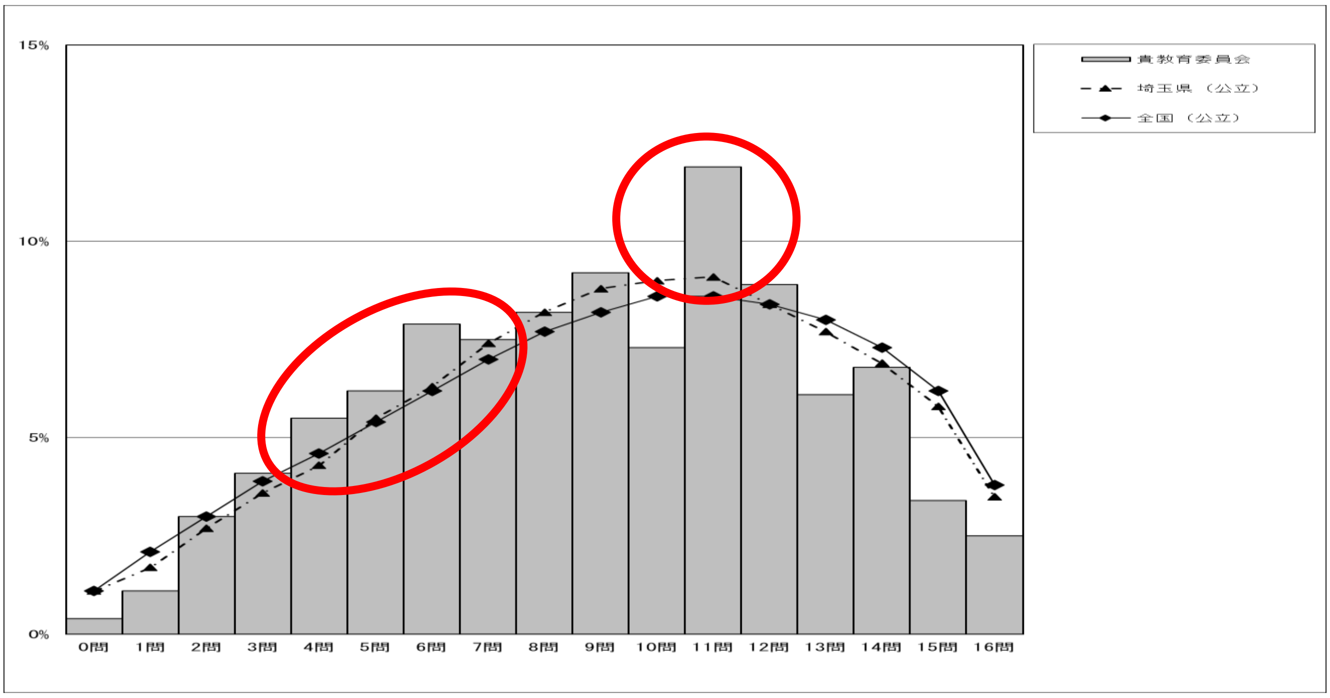
教科	学習指導要領の領域	平均正答率(%)			全国を５０としたときの東松山の換算値	東松山市－全国
		東松山市	埼玉県	全国		
算数	数と計算	62.0	63.1	62.3	49.8	-0.3
		63.2	66.2	66.0	47.9	-2.8
	図形	52.1	54.7	56.2	46.4	-4.1
		65.7	67.1	66.3	49.5	-0.6
	測定	51.4	53.9	54.8	46.9	-3.4
	変化と関係	54.7	57.9	57.5	47.6	-2.8
		48.6	51.7	51.7	47.0	-3.1
	データの活用	62.3	63.4	62.6	49.8	-0.3
		59.1	62.6	61.8	47.8	-2.7
	全体	56	58	58.0	48.3	-2.0
		61	64	63.4	48.1	-2.4

＜考察＞

○　全体の正答率は全国や埼玉県の平均値を下回るものの、「数と計算」「データの活用」に大きな伸びが見られる。

▲　「図形」の領域は正答率が低く、全国との差も-4.1%と大きい。図形の性質や作図の仕方を覚えるだけでなく、作図の過程を説明するなど、思考を伴った学習が必要である。

２.「正答数分布」グラフから



＜グラフからの考察＞

○　下位層の割合が多く、上位層の割合が少ない。また１１問正答の中位層の割合が多い。下位層の児童の基礎学力の定着と、中位層の発展的な学びの保障等、個に応じた指導の充実が求められる。

集計結果

理科

	東松山市	埼玉県（公立）	全国（公立）
児童数	708	55, 999	936, 576

１．領域別正答率

※下段の数値は令和４年度

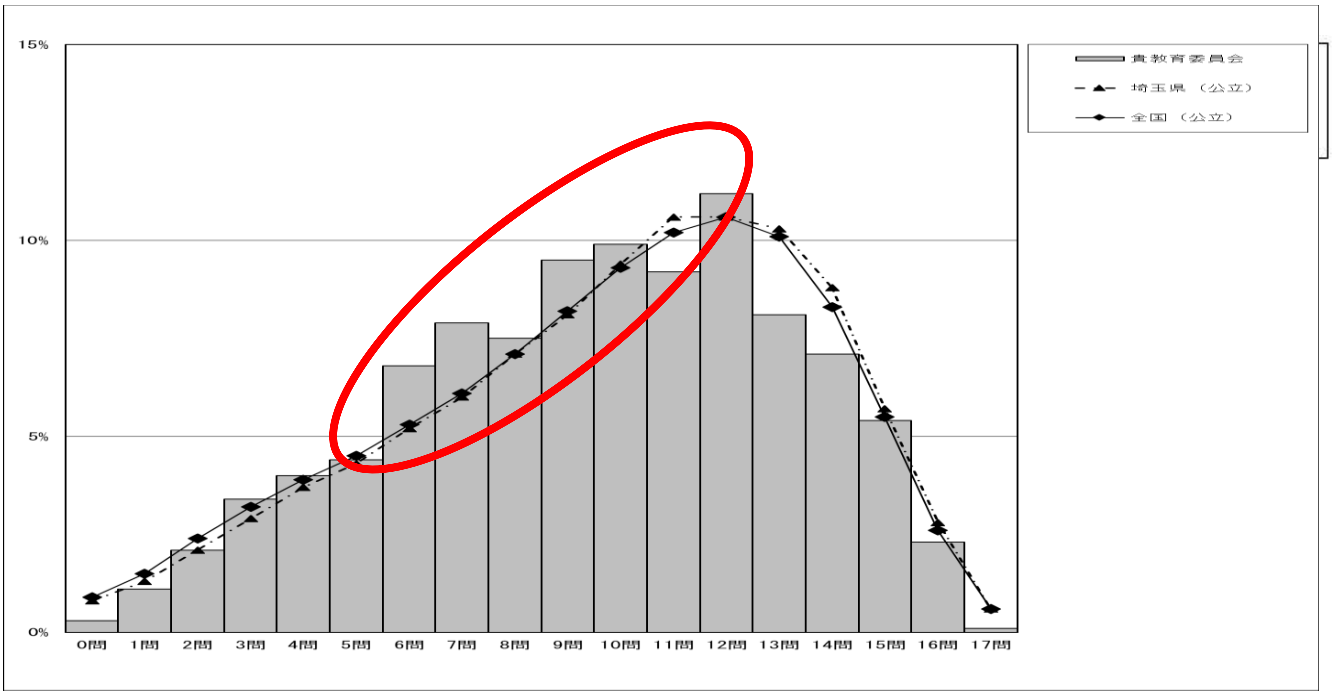
分類		学習指導要領の領域	平均正答率（%） 東松山市	埼玉県	全国	全国を５０としたときの東松山の換算値	東松山市ー全国
学習指導要領の区分	A	「エネルギー」を柱とする領域	45. 2	46. 6	46. 7	48. 4	-1. 5
			52. 4	52. 5	51. 6	50. 8	0. 8
		「粒子」を柱とする領域	51. 4	52. 7	51. 4	50. 0	0. 0
			60. 4	61. 6	60. 4	50. 0	0. 0
	B	「生命」を柱とする領域	50. 7	53. 1	52. 0	48. 8	-1. 3
			79. 1	76. 7	75. 0	52. 7	4. 1
		「地球」を柱とする領域	64. 6	67. 7	66. 7	48. 4	-2. 1
			63. 8	65. 3	64. 6	49. 4	-0. 8
		全体	56	58	57. 1	49. 0	-1.1
			65	65	63. 3	51. 3	1.7

＜考察＞

○　「粒子」を柱とする領域では、全国平均と同等である。

▲　全体の正答率、領域ごとの正答率のほとんどが、全国平均を下回っている。実験の過程で、条件を変える理由を説明したり、結果から考察したりする活動をより充実させる必要がある。

２．「正答数分布」グラフから



＜グラフからの考察＞

○　中位層の割合が、全国よりも多い。中位層の児童の伸びが市全体の学力向上につながる。